

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

3月号(NO66)通巻 216号

2024年3月10日(日)発行(毎月10日)

【農暦】多忙後遺症？は治りそうにない！

○畦道にはオイヌノフグリが群生を始め、それにホトケノザも群生を始めた。それにナズナが畦地が春の賑わいを始めている。いよいよ春である。ショッピングセンターの花屋には色とりどりの花が春を演出している。ひな祭りに合わせてか桃の花が目立った。春になったなと思った翌日は冬の寒さに、寒い暖かいが続く。昨日(8日)は雪で真っ白になっていた。冬に逆戻りである。だか雪解けは速かった。春近しである。



<雪の朝> 8日撮影

○鳥取の大山と北アルプスの風吹岳で雪崩で遭難のニュース見て、22日に山の仲間の偲ぶ会があったばかりだったので、北岳、谷川岳など雪山のことが思い出された。鹿島槍ヶ岳では表層雪崩の傍を、那須岳では雪崩後を歩いたことがあった。今ではちょっとした寒さも応える。能登の雪のニュースを見ると大変さが想像される。春は早く来て欲しい。

○東日本大震災の災害援護資金の滞納率が35.2%になるという新聞見出しを見て、被災した人にやさしくないなと思った。能登貸付支援金と数千万・億の政治資金が国会で審議されていたが、能登が同じことにならないか危惧してしまう。“ガザ人道状況「深い懸念」米副大統領(5日朝日)”とあったが米国ほかの世論対策でしかない。米国の支援なしではガザ殺戮は続けられない。ガザは天災ではない。弱者に対して政治は優しくなことを思い知らされた気がする。こんな政治家に人道を語って欲しくない。

○天気はよく変わる。雨で寒い日の翌日は決まって暖かい朝陽が注ぐ。こんな日が続いているように思う。心がけが悪いのか天気の良い日に限って屋内での用事あり雨の日はない。雨の日は日頃出来ないままの家の中の仕事をすればよいのだが気力が出ない。そんな日が続いている。



<ほうれん草> 2日撮影

○こんな生活もあってもと思うのだが、スケジュールに追われた生活を何十年もして来た後遺症なのか予定の無い日は何となく落ち着きが悪い。多忙の後遺症？は治りそうにない。これではいけないと細切れの時間でも菜園に出るようにしている。篠や草の残滓や剪定枝の

片付け、先日は耕起をした。お彼岸過ぎにはじゃが芋を植えをする予定である。絹サヤは微妙だが、ほうれん草、ネギだけは元気に生育している。食材に採取している。(了)

【楽農】<畑>篠や草の残滓や剪定枝の片付け、耕起。ネギ、ほうれん草を食卓に。

【楽市】イベント等；偲ぶ会(22日)飲み会(25日)詩吟例会(29日)誕生会(3日)共生つばさの会(7日)川柳の会(7日)*PCのメンテ、大腸検査などで何かと忙しかった。

【つぶやき=Tweet】3月8日は「ミモザの日」！

○8日は国際女性デー。この日のシンボルの花がミモザであると、朝日の題字にミモザの花があしらわれており、ThinkGenderが特集されていた。イタリアでは3月8日を「festadelladonna (フェスタデラドンナ) =女性の日とし、男性から普段お世話になっている女性に旬のミモザをプレゼントする風習があり、「ミモザの日」と呼ばれるようになったという。1904年3月8日にニューヨークで女性労働者たちが婦人参政権を求めてデモした。この日が国際女性デーの起源日になった。



○昨年のジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中125位で沈んだままである。この日の朝日の大見出しに“単身の高齢女性4割貧困”とあった。小見出しに“77歳無職女性初めて食料支援の列に「自業自得なのか」”ともあった。ジェンダー格差の放置の結果がここまで来ている。東京の杉並では女性の区会議員が半数になったが、まだまだである。アフリカのウガンダでは2003年に憲法でクォータ制を導入し、今では下院議員の女性の割合61.3%で世界トップである。日本の衆議院の女性の割合は10%で131位だという。女性の賃金格差は一向に改善されない。非正規・エッセンシャルワーカーは置き去りされている。春闘の恩恵の枠の外である。貧困格差は拡大し深刻化している。

＜ボケの花＞2日撮影

○新聞、テレビはほとんどがネガティブ発信だと見たくもないと言われた。確かにと思う。ニュースが百あるとすれば楽しいものは一つあるかないかである。スポーツのニュースは勝ても負けてもいいものである。ノーサイドの精神やフェアプレイには拍手したくなる。だが政治資金問題の国会答弁のテレビ映像には憤りを覚える。税など納めたくなくなる。だが一般国民は破産しようが生活に困ろうが容赦なく取り立てられる。それに、ガザ殺戮、犯罪、災害など理不尽なニュースばかりである。出来るなら見たくない。



○国境なき記者団によると、イスラエルによるジャーナリストの逮捕・殺害が、ガザでは84人を超えるジャーナリスト(140

＜ベルギー料理＞22日撮影

人現地集計もある)が命を落とし、ヨルダン川西岸では数十人が逮捕、拘束を経験しているという。米NBCの現地プロデューサーのミルバッドアゼフさん(45)は“全裸にされて調べられた。女性刑務官からは「あばずれ、ガザに行ってしまう」と怒鳴られ、唾を吐きかけられた。手錠、足枷で独房に入れられた。(4日朝日に)”と云う。21世紀の今、イスラエルだけでなく人権侵害がいろいろな所で起っている。日本の入管もその一つである。人権感覚がマヒしていると思えてならない。イスラエルでは人間のケモノ変種が異常発生している？。ガザのヒモホサビエンスケモノ属(虎)。屁理屈なしで止めなばならない。人類が問われている。待たないで。また暗い話に(了)

○断捨離考：リサイクル廃棄継続中！

【後記】明けぬ夜はないかなと！【HP転載】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話：090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com